



○ 中学校の統廃合問題について

一般質問

問 勝山と同規模の1学年4学級未満の中学校は全国では半数。

専門教員が配置されない市内中学校はどこで、どの教科か。県立校と同様に音楽等の教員が複数校を担当すれば解決できる。国や県に学級編成基準の改正を要請し、市独自に教員を配置すれば統廃合は必要ない。

また、文科省は今年、複数校の生徒が拠点校の運動部に参加するガイドラインを示した。部活動は学校統廃合とは別の対応が必要。部活動を理由にした学校統廃合の考え方を見直すべき。加えて、小規模校は学力が低いのか、学力テストの結果を県教委に確認すべき。

答 免許外教科の状況は、中学校経年状況調査で報告しているが、教科名は公表していない。県では国の学級編成基準を緩和し、本県独自の基準を設定、運用しているが、生徒数、クラス数の少ない中学校ではすべての教科を充足する専科教員が配置できていない。市で正規の教員を雇用することは困難であり、県教委に

対して、複数の学校を兼務する形で対応できないか要請したが、実現に至っていない。

勝山市でも複数校の合同チームで大会出場したことがあるが、練習を継続して一緒にすることが難しく、それ以降は実現できていない。地域単位での部活動は、生徒のニーズに合った競技のできる体制づくりと、指導者を確保する必要があり、実現にはかなり難しい現実があることから、長期的に取り組む課題であると認識している。

全国学力テストの結果は、公表できない県のルールがあり、個々の学校情報を得ることはできない。

問 文科省は、中学校の通学距離の最高限度は6kmを原則としている。市内3中学校は全て6km以上の地区がある。過去に中部中で通学バスを廃止した理由は何か。

答 中部中学校のスクールバスが廃止された理由については当時の資料が残っていないため、理由について明確に答えられない。

永年勤続表彰

4月26日に開催された北信越市議会議長会定期総会、及び5月30日に開催された全国市議会議長会定期総会で、北山謙治議員が議員在職30年以上、帰山寿憲議員が正副議長4年以上及び議員在職10年以上、倉田源右工門議員、乾章俊議員、松山信裕議員が議員在職10年以上の特別表彰を受けられました。



北山謙治議員



帰山寿憲議員



倉田源右工門議員



乾章俊議員



松山信裕議員